

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

2010 年度第 3 回研究会報告書

タイ文化圏における山地民の歴史的研究

平成 22 年度第 3 回研究会

日時： 2010 年 11 月 07 日（日）午後 1 時から 6 時

場所： 東京外国語大学 AA 研棟セミナー室（301）

報告：

1. 共同研究員全員

「成果論文の構想について」

2. 松岡格氏（東京大学大学院総合文化研究科・学術研究員）

「徳宏州ジンポー族の社会史と文化：首長・リネージ・儀礼・習慣」

研究会開催の趣旨

この度の研究会の課題は、山地民の社会史と文化です。中国雲南省の徳宏州でジンポー族の「山官」（中国為政者から任命された酋長）とそれに関わる儀礼について実地調査を行った松岡格氏に発表して頂きました。（唐立）

報告の要旨

1. 「成果論文の構想について」

飯島明子共同研究員とネイト・バデノック研究協力者は各自が成果論文の構想について作成した資料に基づき、それぞれ 20 分程度頭説明したのち、参加者全員による質疑応答が行われた。現在、執筆者と論文題目（仮題）は下記の通りである。

1. 吉野 晃「タイにおけるユーミエンの家族構成の社会史—合同家族から核家族—」

2. 西谷大「定期市からみた山地民の交易と生業戦略」

3. 村上忠良「シャン仏教諸派の歴史：東南アジア大陸部の宗教フロンティアの研究」

4. 片岡樹「山地民ラフにおける国家と権力の概念」

5. 山田敦士「文字を持つこと、使うこと：雲南ワ族の事例から」

6. 新江利彦「ベトナム諸民族における征服史観と被征服史観をめぐる一考察」

7. 富田晋介「内戦から農業集団化期における土地利用—ラオス北部低地村の事例から」

8. ダニエルス「タイ族政権運営に参画する山地民、しない山地民：雲南徳宏の事例から」

9. 飯島明子「山地民と「奴隷制 (Slavery)」をめぐる議論の整理—ラワ (Lawa, Lua) の位置づけを中心に」[仮題]

10. ネイト・バデノック「ラオス北部の国境地帯における多民族社会の動態」

(唐立)

2. 「徳宏州ジンポー族の社会史と文化：首長・リネージ・儀礼・習慣」

中国・雲南省の西南部に、ミャンマーのカチン族と同族とされる民族が暮らしている。この民族について、中国ではジンポー族と呼んでおり、さらに五つほどの支系に分けることができるとされている。ジンポー族のほとんどは徳宏タイ族ジンポー族自治州に暮らしている。彼らは農耕・狩猟採集を伝統的生業とし、1950年代まではリーチがカチン族について記述したような首長制を保持していた。また、人々の社会生活において首長制・リネージ・精霊信仰と結びついた儀礼が大きな役割を果たしていたと考えられる。ジンポー族の首長制は新中国成立後間もなく崩壊を余儀なくされるが、それと結びついていたような儀礼は形を変えて実践されている。また、いわゆるマユ・ダマ関係に関わる儀礼や社会意識もある形で実践され続けている。現在それらは中国語で言う「節日」と強く結びついた形で見いだすことができる。例えば「春節」の際に行われる贈与・返礼や、「元宵節」の際に行われるマナオ・ツォンなどにおいて観察することができる。後者については、一種の公定の儀礼になって年々大規模化している。これに対して、ヌムシャンに関わるような儀礼は表だって行われることはないものの、行われ続けており、ある形でジンポー族の人達の心の中に精霊信仰が息づいていることを示しているように見える。こうした現象を多文化主義化・エスニック・リバイバルなどと捉えることがどの程度妥当なのか、検討していきたい。

(松岡格)

松岡さんの発表に対して活発な質疑応答が行なわれた。

(唐立)